

DRC 事業中間報告：放線菌培養上清からの抗認知症活性化合物の探索

微生物学研究室 倉門早苗、杉田 隆

Actinomycetales に属する放線菌は、様々な生理活性物質を産生することが知られている。これまでに、*Streptomyces* を代表とする放線菌の二次代謝産物から抗菌薬（ストレプトマイシン）・抗悪性腫瘍薬（ドキソルビシン）・免疫抑制薬（タクロリムス）等の多くの医薬品が開発されており、放線菌は創薬リード探索の主要な被検菌である。

本プロジェクトでは、環境由来放線菌の培養上清から抗認知症活性化合物（エキス）を BACE1 阻害活性および A β 凝集抑制活性を指標に探索したところ、両活性を示すいくつかの候補が得られた（薬化学研究室との共同）。

本セミナーでは、1) 抗認知症活性化合物（エキス）の探索結果、2) 当該エキス産生菌のゲノム構造解析についての中間結果を中心に発表する。また、認知症とヒト常在菌についての文献レビューについても併せて紹介する。